

平成 22 年度林業生産流通革新的取組支援事業の選定実証課題

番号	モデル地域名	申請者名	実証課題	実施内容
1	奥久慈八溝	有限会社吉成木材	高性能林業機械による間伐生産システムと直送システムの構築及び林地残材の搬出・有効利用	木材生産・流通コストの削減、林地残材の利用推進により、森林所有者への還元の確保を図るため、ザウルスロボ等を活用した作業路開設、車両系林業機械（ハーベスタ、プロセッサ、フォワーダ等）による素材生産、加工工場への直送、全木集材による林地残材等の搬出の実証を行う。
2	中日本圏域	田中林業株式会社	スイングヤーダによる列状間伐の生産性向上と運材工程の効率化	並材主体のスギ間伐作業の低コスト化を図るため、列状間伐と作業道を開設しながらのスイングヤーダ、プロセッサを組合せた集造材作業の効率化、脱着アームロール式フォワーダを使用し、伐採現場から山土場までの搬送時間の短縮と効率化の検証を行う。
3	四国	徳島県森林組合連合会	クローラ式タワーヤーダによる小規模皆伐及び間伐コストの検証	当地域ではスイングヤーダ・プロセッサ・フォワーダによる間伐システムを推進しているが、地形が急峻な林地では作業道コストが高く、スイングヤーダでは 150m 程度の集材が限界である。更なるコスト削減を図るため、クローラ式タワーヤーダによる小規模皆伐及び列状間伐の生産効率、この場合の作業道の密度、ストックヤードの配置のあり方等の調査を行う。
4	高知中央・東部	有限会社川井木材	自動操縦化したタワーヤーダ使用による木材生産効率化及び省力化	小規模分散化傾向にある作業地及び非皆伐施業の作業地での更なる林内生産性向上を図るため、自動操縦化したタワーヤーダ(ラジキアリー使用)を使用し、荷掛け 1 名、タワーヤーダ+プロセッサ 1 名の計 2 名での集造材に取組み、生産効率・省力化の実証を行う。
5	大分	株式会社日田十条	新検知システムの導入及び輸送方法の見直しによる原木流通コストの低減	デジタルカメラを利用した新検知システムの導入による山土場から工場への直送システムを構築するため、原木取引における売買双方の信頼性を高めるための新検知システムの精度の検証とそれによる原木生産流通コストの低減を実証する。併せて輸送トラックの大型化等による

				輸送コスト削減の検証を行う。
6	宮崎	株式会社 もくみ	高性能林業機械を使用した素材生産や工場直送によるコスト削減効果の検証	収穫期を迎えた人工林材生産の生産・流通のコスト削減を図るため、皆伐作業地でスーパーロングアームグラップル+プロセッサ+グラップルの作業システム、間伐作業地でスイングヤーダ+プロセッサ+グラップルの作業システムの実証を行う。また、山土場から大型トラックによる製材工場への直送を行い、流通コストの低減に取り組む。
7	宮崎	株式会社 松岡林産	スイングヤーダ集材における繊維ロープ使用による労働強度軽減等に対する生産コスト低減の実証	架線系集材の課題として、架設経費が高いこと、作業が危険で重労働であることの二点が挙げられる。この課題解決のため、ワイヤーロープによる集材と繊維ロープによる集材を比較し、労働強度の軽減によるコスト、繊維ロープの維持管理コスト等の実証調査を行う。